小額の三

福亭三笑作

寅の春

春亭画

上

鶴喜版

へ13
2378
327

遠18
2378
327
特

上

門人三笑が
筆

式亭三馬

作者 福亭三笑

福亭

何事も
なくて
なるを
極よ
とのもく
雪ハ下の非人
身武の小猿
実ハきんごろう
金五郎兄
金兵衛
福亭
三笑
浪
花乃
金五郎
女房額の小さん
小松家の重臣
金江金左衛門

金

雪

金
雪

金
小

三えん額がくの小こ
寅乃春
三笑作
中
鶴喜板

つづき

おうのつづき

石

小
角

小三

角

つぎ
あとをつけて
ゆきてはやとに
なすのくにあさらか
のきりぐさ
かるとをるとの
のの歩ざる
ときえ
くけ
かおりけに
まろとく
ちらばなすあ
てうちんもつけど
きろるなろのあろと
三日なすもどこまでごん
すのおろてえんぜうと
きのてなすあべそろとて
ハイとてハつのそこまで
まるものぐろくろハちんとませぬど
なりめくハありがさられどつれた
ゆきろふまちられば久ろてひとろが
くつでぐ　ぐろりまちあひ
るぐろすこーちゃあに
ゆけば「コレサあなすせどの
ろるのものごとのひろぐろ
どろぐく」とるとてれば
下のまきつづく
接

がくの頭小
えん三
とくの長
三笑作
鶴喜板
下

桜

雪

佐々良三八

つぎ

おやびとなでぞろつくろ「そうのふそのわ
「さいれていつもながいるうちすうちかたの
ぐせがれ「おやびとのうつさもちろいるを
ゆへくくこれば「あげんと」いふきつけるゆえ
でもこうたとさりもどきれ八三八といふこと
ひそうたなつぬるうちすてこの分とこうり
おやハはれのうちう今ハ今ハとこう
このうあづけこそふんどうに
まつて世ろふくときて
さそハいつぞやうぞり
こそこそ
それ
あの
ぬる

☒「そんきう」こそこそハそのよ
きうり」人ハうぞれか
そきんぬんとふそうが
いうり「そのこそこそ
そんこそこそ
きるハ秋月一角之
「やあ」ぬるぞぶとう」て
「ふくふしハかつも
七年いぬん正月昔
ぬるもあるのの
よひやこそ

の
ぬる
ハ
ぬ
ぬ
ぬ
ひきあの

しのみこれ
いるれば
このつこいつで
のぐるぐき今ぬうどの
ろーやくこのもとこもぐ
ぬぬきこのとこゆるを
ろうとこの「おやびと
しやうぐのの
きこまで
ぬるの
ぐうし
たのかど
ぬらし
のの
ぬのりあひの
よこぬぬのこば
ぬんしてのとのぬに
ぬるぬうたこのぬのぬん
ぬこまでぬうきぬのやぐこ
それとハーこたこぬの小ざるとよばれ
ひんんぬまでぬうきぬうり」竹刀の上「それこそ
のきこうぬり日こそぬわきた七年目のぬの
きぬちにやぐりのとハ「かりぬりこれもこのの
まりをまこうの名とのりひーゆへ身のの
こうこのこすけ「おやのひきあこせであつこ
あこーやくりのこうこうきうこうこうれきの什今ぬ

☒二人のまん中
たぐりよせこるぬ
こうこ「ぬんきう
そのこの夜のぬらうぬん
「そんきう」そのこの
ぬすこんぬのこのこ
ぬうこうでぬこう
しぐ

◐今ぬこハ「ぬのこと小ぬきひどの
こぐ◐ぬこーあこーやんぐこぐこ
こぬやくこぬこうこれて小ぬきこん
ぬこうこうこうこきこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこ
こ今こうこうこうこうこうこ
こんこうこうこここここ
ぐここんぜ「こうここ
こうこうこうこうこ

☒

猿
角

雪

三笑作

春亭画

福亭

福亭三笑書